



「ゆるす」「信じる」「待つ」の心

たまい小児科 院長 玉井友治



高校野球史上、最も心に残る試合、延長18回の死闘といわれる試合があります。

1979年8月16日夏の甲子園、和歌山県代表箕島高校と石川県代表星陵高校の延長18回の激闘は、高校野球史上屈指の名勝負です。

試合は、1-1のまま延長戦に入り、12回表に星陵高校が1点勝ち越しますが12回裏に2死から同点ホームランで箕島高校が追いつき、16回にも再び星陵高校が1点勝ち越すものの16回裏2死からファーストファウルフライを1塁手が落球した直後に起死回生の同点ホームランで箕島高校が再び追いつき、結局延長18回裏、箕島高校が劇的にサヨナラ勝ちしました。

この敗戦後、星陵高校監督山下智茂さんは、「尾藤さん(箕島高校監督尾藤公さん)と自分はどこが違うのか?なぜ、負けたのか?」と自問自答し続けました。

その答えは、「あのとき、尾藤さんは選手を信じ切っていた。選手が失敗してもゆるし、信頼が揺るがなかった。だから、試合で何度窮地に追い込まれてもベンチで常に笑顔でいられた。選手をゆるし信じて待つこと、私にはそれが出来なかった。」と気づいたといいます。山下監督は、「ゆるす」「信じる」「待つ」を実践する尾藤監督に少しでも近づこうと、哲学など野球以外の書物を読みあさり、鏡の前で笑顔の練習をすることもあったそうです。

その後、山下監督は何度も甲子園に出場しましたが、元ヤンキース松井秀喜選手を擁して甲子園に出場しても優勝することは叶いませんでした。しかし、山下監督は、「監督の仕事は、野球を上手にして勝つことが目的ではない。長い人生のなかでたった3年の短い高校生活の間に、野球の指導を通じて、生徒のその後の人生を支える何かを身につけさせることだ。私は尾藤さんに巡り会って、高校野球の指導は勝つこと以上に大切なことがあると気づかされた。」「連戦連勝だったチームの生徒(選手)より、負けたチームの生徒(選手)の方が心に残っているし気になる。」と言います。

このストーリーを知り、私は、「ゆるす」「信じる」「待つ」の精神、これは、子育てに通じる、子育てに必要な心であると感じました。

(続く↑)

子育ては、子どもたちの将来を支える何かを発見し、そして身につけてもらうことが大きな目的です。私たち大人には、子どもがうまくできなくてもゆるし、いつか出来る信じ、それまで根気強く待つことが求められていると思います。

● 5月、6月、7月の診療予定と休診情報 ●

- * 5月20日予定の乳幼児栄養相談会は中止になりました。
- * 5月23日(木)午後的一般診療は、院長所用のため、**16時で終了**します。
- * 6月11日(火)夜間は、院長が大分市小児夜間急患センターに出動します。
- * 6月13日(木)は、院長が明治北小学校の学童内科健診に出動するため、**午後の診療を休診**します。
- * 7月6日(土)は、休日当番の代休で、休診します。
- * **7月7日(日)は、休日当番医**ですので、8時30分から17時まで診療します。

☆ 無責任ネット情報と医療

医療とネット情報について少しお話します。

インターネットは、瞬時にいろいろな情報を検索でき、非常に便利です。しかし、その情報の真偽には怪しいものが少なくなく、その情報を信じるか否かは読み手側の姿勢にかかっています。ネット情報の内容は非常に無責任なものと言わざるを得ません。

商品紹介などの情報ならば、誤った情報を信じたとしても、生死に関わることはありませんが、医療やワクチンなどの情報は、真正ではない情報を信じて生死に関わる悲惨な結果を生むこともあります。近頃特にネット上で目に余るのは、ワクチン接種や医療を控えるように勧めたり、ありもしない副反応や副作用を書き立ててワクチンや医療を否定する情報が氾濫していることです。そのどれもが個人的な感想や非科学的な印象を書き込んでおり、中には特定の宗教団体や営利団体に誘導するものさえあります。その情報を鵜呑みにして、ワクチン接種や医療を否定・拒否することは、結局不幸な結果を招くことになり
(裏面へ)



◎ 気管支喘息のはなし *** よくある質問シリーズ 3 ***

近年、保育所などの集団生活の普及によって風邪などの気道感染症にかかる機会が増え、低年齢から喘鳴を繰り返す児が多くなっています。一方、喘息の治療が向上した現在では、入退院を繰り返して治療に難渋する重症喘息児は減少しています。

今回は、喘息の症状と診断、重症度と治療、日常生活の注意点についてお話しします。

★ 喘息の症状と診断

喘息は、ゼーゼーヒューヒュー(喘鳴)と咳込みがひどくなり呼吸困難をおこす病気です。乳幼児では、3回以上喘鳴を繰り返すと乳児喘息と診断するとされています。

★ 喘息の治療と重症度の評価

喘息には、発作時の治療と発作がない状態を維持する治療があります。

1. 発作時の治療は、気管支拡張剤の吸入や点滴などで発作を押さえ込む治療です。
2. 発作が押さえ込めたら、発作がない状態を維持する維持療法を行います。
3. 治療内容は日本小児アレルギー学会の治療管理指針に定められており、治療薬の種類や期間は、重症度によって異なります。薬の選択には、重症度の評価が最も重要で、重症度の決定には、治療経過と症状の推移が必要不可欠です。喘息日誌に治療経過と症状の推移を記入していただくと非常に有用です。



★ 喘息の治療目標と日常の喘息症状

治療の目的は、喘息発作がない状態を長く維持することです。普段通りの生活をしていても発作が出ない状態が治療目標です。生活を制限して発作がない状態を維持することではありません。走り回ったり、運動すると咳き込む。暴れたり、泣いたり、笑ったりすると咳込む。寝入りばなに咳込まないと眠れない。朝寝起きに咳込みがある。これらは発作が落ちついていない徴候で、治療を継続もしくは変更する必要がありますので相談しましょう。

★ 運動と喘息発作

喘息発作を誘発しやすい運動は、ランニング(特に長距離)、サッカー、バスケットボール、テニス、スキー、クロスカントリースキーなどの持久的運動です。

喘息発作を誘発しにくい運動は、野球、ゴルフ、柔道、バレーボールなどの瞬発的運動と、持久的運動の中で唯一、水泳とされています。

★ 喘息はこんな時に悪化します！ 注意しましょう！

1. 風邪や気管支炎、肺炎、インフルエンザなどの気道感染症の時
→ 是非、インフルエンザワクチンを接種しておきましょう！
2. 台風や低気圧が通り過ぎる時、または、通り過ぎた後
3. 寒暖の差(最高と最低気温の差)が、10℃以上の日
→ ゴールデンウィーク前後や運動会シーズンなど、春秋は悪くなりやすいです！
4. 黄砂、PM2.5、タバコ、花火や線香、排気ガスなどの煙を吸った時
5. 運動会や発表会などのイベントの前後
6. アレルギーの原因物質(アレルゲン)にさらされた時
→ 埃やダニが多い所に行くと悪くなります！
ペットの飼育も要注意です！

★ 気管支喘息のお子さんのご家族は禁煙しましょう！

タバコの煙を吸い込むこと(受動喫煙)は、気管支喘息の明らかな増悪因子です。お子さんがいくら頑張っても、ご家族に喫煙者がいるとなかなか喘息の症状は治りません。喫煙していない時にも喫煙者の呼気中に、煙成分が排出されますので、蛍族のような戸外での喫煙は無意味です。喘息のお子さんがいらっしゃるご家族は、必ず禁煙しましょう。ご家族の皆さんのご協力をお願いします。

音楽療法士 おすすめの 今月の歌

音楽療法士 玉井さちこ

いよいよ5月、端午の節句ですね。そこで今月の一曲は定番の、

こいのぼり

屋根より高いこいのぼり 大きいまごいはお父さん
小さいひごいはこどもたち おもしろそうに泳いでる

- ♪ 青空に元気よく楽しそうに泳ぐこいのぼり、
家族で仲良く泳ぐ様が見えるような心とむ一曲です。
ズンチャッチャ、ズンチャッチャ、3拍子のワルツのリズムにのって、
優雅にのびのびと大きな声で歌ってみて下さいね。 ♪

(2)

